

【著作紹介】ごみゼロへの挑戦 ―ゼロウェイスト最前線



著者：山谷 修作（経済学部総合政策学科 教授）

出版社：丸善出版

出版年：2016年10月発行

価格：2,200円＋税

ISBN：9784621300817

[所蔵状況を確認する](#)

<http://triton.lib.toyo.ac.jp/detail?bbid=U102251113>

内容：

徹底したごみ減量・資源化を提唱するゼロウェイスト戦略。その特徴はごみ減量の推進にあたって、地域振興・伝統技術・低コスト・低環境負荷の4指針を重視すること。これらの指針と、筆者が年来提唱する「ごみ見える化」（資源化可能性や処理費などの可視化）の視点から、世界最先端のごみ減量・資源化の取組と到達点、わが国の先進自治体によるごみゼロへの挑戦とその成果を検証する。日本型ゼロウェイスト戦略の方向性も提示。国内外の先進的なごみゼロへの挑戦を眺望できる待望の一冊。

[丸善出版の紹介ページ](#)

<https://www.maruzen-publishing.co.jp/item/b295122.html>

教員メッセージ

皆さんは、埋立処分場の限界や地球環境問題の深刻化を背景に、ごみ減量への極限までの挑戦として、ゼロウェイストの取り組みがグローバルな広がりを見せていることをご存じでしょうか？ゼロウェイスト戦略は、ごみの処理や減量・資源化の推進にあたって、4つのL、すなわちローカル（地域振興）、ローテク（伝統技術活用）、ローインパクト（環境負荷低減）、ローコスト（経費節減）をその指針としています。本書は先進的な諸外国と日本各地での調査活動を通じて、ゼロウェイストの理念を体系化し、4Lの実践例を多数発掘しました。

そうした実践例の1つを紹介しましょう。武蔵野市と連携してごみ減量に取り組むボランティア市民団体「クリーンむさしのを推進する会」は、小学校の教育農園の一角に手作りの堆肥場をこしらえ、周辺37世帯生ごみを週2回受け入れて堆肥化し、教育農園の畑に漉き込んで、小学生が野菜の種まきから収穫までの農事体験を学ぶお手伝いをしています。この古くからの伝統技術活用による資源化量は昨年までの4年間で11トンになり、市の可燃ごみ処理費（42円/kg）を46.2万円削減した勘定になります。小学生が育てる野菜はCO₂を吸収し、焼却処理に伴うCO₂の排出も回避できるなど環境負荷低減

にも寄与しています。最近、会は高齢者デイサービスセンターの屋上庭園でも堆肥を活用、高齢者のコミュニケーションや障害者のリハビリテーションに役立っているようです。

ごみ減量の取り組みを住民福祉や環境教育、雇用創出、自治体の経費節減、環境負荷の低減につなげる発想として、自治体が住民や事業者との連携のもとに、ゼロウェイストを地域の経営戦略に取り込む時代の到来を予感しています。

目次

第1部 ゼロウェイスト戦略のはじまり

- 1 ゼロウェイスト戦略とは何か
- 2 キャンベラのノーウェイスト・プラン

第2部世界の最先端をいくゼロウェイスト戦略

- 1 サンフランシスコのゼロウェイストへの挑戦
- 2 釜山市の生ごみ資源化とその成果

第3部 日本のゼロウェイスト宣言自治体の取組

- 1 日本初のゼロウェイスト宣言をした上勝町
- 2 大木町の4L実践による循環のまちづくり
- 3 「負の遺産」を「価値ある資産」に変えた水俣市

第4部 ごみゼロに挑戦する多摩地域の自治体

- 1 「見える化」で家庭ごみを大幅に減量した府中市
- 2 減量施策で広域支援期を乗り切った調布市
- 3 非常事態のもとで徹底した減量に取り組む小金井市
- 4 日野市「ごみ改革」後の減量を支える市民パワー
- 5 事業系ごみ対策で大きな成果を上げた武蔵野市

第5部 ごみゼロに挑戦する全国各地の自治体

- 1 生ごみ資源化で新たなステージに立つ長岡市
- 2 「見える化」と「民活」でごみ減量を推進する掛川市
- 3 053大作戦で市民の意識改革に取り組む苫小牧市
- 4 ゼロウェイストの理念を忠実に体現する大崎町
- 5 成果が見えてきた葉山町ゼロウェイスト戦略

第6部 ごみゼロをめざす「見える化」の取組

- 1 ゼロウェイストへの道を切り開く「見える化」
- 2 生ごみ自家処理普及に活路を切り開くか「キエーロ」
- 3 ゼロウェイストをめざした市民団体
- 4 地域ぐるみの不適正排出対策

おわりに――地域にふさわしいゼロウェイストをめざして

[著者] 山谷 修作 (ヤマヤ シュウサク)



【学歴】

- 1978 年, 中央大学, 経済学研究科, 経済学
- 1971 年, 中央大学, 経済学部, 経済

【学位】

- 経済学博士, 中央大学
- 経済学修士, 中央大学

【所属学協会】

廃棄物資源循環学会
公益事業学会

【委員歴】

2003 年 - 2007 年, 公益事業学会, 会長
1994 年 - 2012 年, 国際公共経済学会, 理事
2001 年 - 2009 年, 日本経済政策学会, 理事

【経歴】

1981 年 - 1988 年, 東洋大学経済学部 助教授
1988 年 - 現在, 東洋大学経済学部 教授

関連リンク

[奨励的ごみ減量プログラムの実施状況と活性化策―全国市区アンケート調査の結果から― \(東洋大学学術情報リポジトリ\)](#)

<http://id.nii.ac.jp/1060/00009115/>